

研究だより

2019年
4月 15日
NO.3 2の2 担任

教科書をアレンジ！ 思考を生むプロセスをつくるために 2年算数 「いくらになるかな」 ～たし算のひっさん～



教科書では、筆算を学ばせるために、

25 円のラムネと 14 円のすだこを買います。
代金はいくらですか。

という問題を出しています。でも、これでは、なんにも面白くないですね。そこでアレンジしました。

おかしを2つ買ったら、39 円でした。何を
買ったでしょうか。

この方が俄然、興味が沸きます。実際、子供たちは、一生懸命に写真を見て「どれだ、どれだ？」といろんな計算をして、「ラムネ 25 円」と「すだこ 14 円」の組み合わせを見つけたときには、歓声が上がりました。

教科書ではその後、空位のある計算、欠位のある計算でもすべてこのパターンが続くので、すべてアレンジして行ったところ、子供たちの意欲は高まり続けて、3 時間の内容が 1 時間で終わりました。もちろん、筆

算の習熟には時間をかける必要がありますが、やらされた感がない学習は、楽しさが違います。

後半は、このパターンに繰り上がりがかかります。そこで、更なるアレンジパターンで

おかしを二つ買ったら、40 円でした。何を
買ったでしょうか。

(15 円) の組み合わせを見つけた子を、大げさに褒めました。なぜなら、その組み合わせには「繰り上がり」が発生するからです。繰り上がりのある組み合わせを見つけるなんて、すばらしいことですよね。繰り上がりについては、位取り図を使って、お金で操作するなど、丁寧に扱って繰り上がりの計算の意味とやり方を定着させるわけですが、このアレンジの効果で、意欲が最後まで続く気がしました。

こんなふうに、特別なジャンプの課題を設定するのではなくても、教科書をもとに、ほんのちょっと、アレンジするだけで、興味が持てる教材になることがあります。きっと、いろんな教科のいろんな場面にこのような可能性が潜んでいそうな気がします。